

第652回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 内子の歴史町並保存・景観保全事業

..... 愛媛県喜多郡内子町

- 高度経済成長の中で全国的に開発が進み、歴史的な建物が急速に失われていく時代のなか、文化庁は全国の集落町並の調査を実施し、その時にリストアップされたのが八日市・護国の町並みであった。
- 町は保存条例や補助制度を整備するなど保存対策を図り、住民も保存修理に着手するなど保存事業が進み、昭和57年、四国で初めて、重要伝統的建造物群保存地区に選定。
- 内子町の町並み保存の目的は、そこにあるものを生かすまちづくりで、歴史・風土に培われてきた伝統や文化に価値を見出し、まちに誇りを持って人々が暮らすまちづくり。
- 内子町民の誇りとなっている内子座は大正5年に創建された木造芝居小屋であり、老朽化に伴い解体する声も上がった。
- 昭和57年に町に寄贈され、町指定文化財に指定。その後、修理・復原され、内子座を拠点とする住民による興行グループや劇団が結成され、再び活気を取り戻した。（2015年国指定 重要文化財）
- 他にも歴史的な建造物は「木蠟資料館上芳我邸」（重要文化財）や歴史民俗資料館、町家資料館などの伝統文化施設として生かされており、内子町の景観形成において重要な役割を担っている。



2 大洲城天守閣復元事業

..... 愛媛県大洲市

- 大洲城天守は、江戸時代に造られたと思われる天守雛形、明治時代に撮られた古写真などの史料があり、往時の姿を正確に復元できる日本でも数少ない天守。
- 大洲城天守閣復元事業は、平成6年に木造による復元を目指し、平成8年に建築史家（故）宮上茂隆氏が「木造による完全復元が可能」と発表し、以後本格的に実施され、完成まで10年かかった。
- 大洲城天守は、慶長年間(1596～1614)に建てられたといわれており、天守を現代によみがえらせるため、多くの人々が様々な分野で当時の技術を再現するため挑戦。
- 現存する重要文化財の台所櫓と高欄櫓を結ぶ多聞櫓を復元するというもので、史料の詳細な分析に基づく正確な復元が貫かれ、戦後初めて木造の4層4階天守を完全に復元。しかも19.15mという復元された木造天守としては日本一の高さを誇る。



3 肱川直轄河川事業（上老松地区）

..... 大洲市長浜町

- 肱川では過去に大雨による浸水被害が生じている。
- 肱川下流の長浜地域上老松地区において、浸水被害を軽減するため一級河川肱川の改修事業を実施。
- 改修事業では、国の「土地利用一体型水防災事業」や県道の整備に合わせて、道路・公園・その他の公共施設の整備改善を図り、良好な環境の市街地を計画的に造成し、水防災事業の建物移転を円滑にし、宅地の利用増進を図ることを目的として、市が土地区画整理事業を実施。
- 肱川に架かる大和橋についても、県が本川の堤防工事と併せて橋の架け替え事業を実施。

